

・マニー株式会社 手術用縫合針でトップシェア

刮目すべきは、創業以来「トレードオフ（やらないこと）」の明確な基準があります。それは、

- 一、医療機器以外扱わない。
 - 二、世界一の品質以外は目指さない。
 - 三、製品寿命の短い製品は扱わない。
 - 四、ニッチ市場（年間世界市場五〇〇〇億円程度以下）以外に参入しない。
- といったことです。

・株式会社エーワン精密

梅原氏はその理由を「創業前、さんざん下請けの悲哀を見てきたので、自分で経営するときは、嫌な思いをしない、させない経営をやらねば……」と三大方針を掲げたと言います。

三大方針とは、「第一は下請けではなく自家商品を創り自分で売る」「第二は小ロット、短納期なものに特化し、徹底的に他社との差別化をはかり、**価格競争はしない**」、そして「第三は徹底的に市場調査をし、**利益率が低い商品は開発も受注も決してしない**」です。

・株式会社能作 柔らかい金属の食器

今までは、錫の「安定性がなく、曲がりやすい」という特徴によって、錫は加工しづらい金属ととらえられていましたが、「シリコーンゴム鑄造」という技術を独自に開発することによって錫の加工が容易になり、デメリットであった錫の特徴を、長所に変えた「自由自在に形を変えることのできる錫製の器」を開発するにいたりしました。

・株式会社トウチュウ 「砂」で日本の産業を支える

当社も、近い将来、自社採掘場の枯渇が予測されたため国内で珪砂を採掘できる地層を求め山口県下関・島根県温泉津で珪砂層を発見し、開発に成功しました。

あわせて、海外の資源を確保するために視察と調査をくり返した結果、西豪州に自前の鉱山として二つの珪砂鉱山を開発し操業を行っています。

ひとえに「砂」と言っても多くの用途があります。**仮に砂資源を確保できなくなれば国内の鑄物業界と窯業業界が製品をつくれなくなってしまう**。私たちはそのときに初めて、どれだけ多くのものが砂の力で作られていたかを知り驚くことでしょう。当社は、そんな不測の事態に陥らないようつねづね「産業界のために供給を止めてはいけない」という使命感をもち安定供給できるよう努めているのです。

・株式会社マキオ 阿久根の巨大スーパー

利益第二主義を掲げ、売上日標は一切立てずに、とにかく地元の方が喜ぶことは、仕入れもサービスも利益度外視で行っています。

ダイシン百貨店「半径 500m 圏内シェア 100%」というキャッチフレーズ

つまり、本社が大きすぎると、本社は自らの正当性と人員不足を証明せんがため、次から次に現場に圧をかける仕事を創造してしまうからです。この結果、本来現場が考え現場こそが主体的に改善・改革しなければならない仕事まで、**本社にわざわざおうかがいを立てることになるのです**。そして、**現場の思考能力は低下**していくのです。

「六花りっか」雪の結晶体

・丸吉日新堂印刷株式会社

そこで、「もっと世の中のためにできることはないか」と考えた阿部社長は、とある講演でバナナペーパーの存在を知り、さっそく、バナナの茎からつくったバナナペーパーを利用した名刺の製作に取りかかりました。収穫後のバナナの茎は、通常はゴミとして焼却されていたのですが、これを再利用して紙をつくることによって、バナナを栽培している発展途上国に、バナナペーパーの原料をつくるという新たな労働機会を創出したのです。

現在では、トウモロコシの皮や帆布の糸くず、ケナフや琵琶湖の葦、間伐材を原料とした再生紙名刺も手がけるようになりました。これらには、希望すれば点字加工することもできます。この点字加工は、社会福祉法人で働く精神障がいのある方々が、手作業で加工します。あえて自社で内製せず、福祉施設に発注して、**障がいのある方々の仕事を少しでも増やそうとしている**のです。さらにエコ名刺の売り上げの1%を自然環境基金団体（1% For The Planet）もしくは日本盲導犬協会に寄付しています。

このような、利他の心をもって運営されている丸吉日新堂印刷への賛同の声は、顧客の数に表れ、受注件数が毎月五〇〇～六〇〇件という大幅な増加につながっているのです。

ブルーフリーディング（納品前の最終的な翻訳チェック）

日本はもちろん、世界の製造業、工場に精通している内原氏は、「精密機械の製造技術において日本はトップクラスだが、**営業力がそれに見合っていない**」と述べています。

たとえば世界最大の産業見本市であるハノーバー・メッセでは、一二（平成二四）年

度、全出店企業数約五〇〇〇社のうち中国企業が約五〇〇社であったのに対し、日本企業は約二二社とその差は歴然です。

アイエスエフネットグループは、採用にあたってさまざまな事情で就労が困難な社会的弱者を、それを理由にして不採用にはしません。人を思いやる気持ちがあり、行動力があれば、事情を問わず採用し、彼らが安心して働ける環境を創造しています。競争の激しいIT業界で、就労困難者の雇用の場を積極的に創出すること自体極めてまれなことです。

現在、元ニート・フリーターが六〇〇名、障がい者が約七〇名、ワーキングプア（ここでいうワーキングプアとは、働く時間に制約のある方のこと）が約七〇名、元引きこもりが二八名、シニアが約三五〇名のほかDV被害者、性同一性障害者などの採用実績もあり、その数は、グループ全体の社員数の三〇%にも達しています。このように、さまざまな問題を抱えている就労困難者のために、働くことの喜びや、生きがいを提供している企業はほかに例を見ません。